

それぞれの漱石

Program

第1部

平成27年度
新宿区夏目漱石コンクール
優秀作品表彰式

審査講評：嵐山光三郎
(作家)

第2部

一人芝居
「妄ソーセキ劇場」

出演：イッセー尾形
(俳優)

司会・朗読：岩田理加子
(新宿歴史博物館ボランティアガイド)
(朗読の会ふみのしおり主宰)



画：イッセー尾形

▶日時

平成27年12月13日(日) 14:00開演(13:15開場)

▶会場

早稲田大学大隈記念講堂 大講堂

主催

新宿区
SHINJUKU CITY

共催

朝日新聞社 早稲田大学

▶新宿区公式HP <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>

2017年夏目漱石生誕150周年に向けて
新宿区夏目漱石記念施設整備プロジェクト Vol.5

～それぞれの漱石～の開催にあたって



夏目漱石記念施設整備プロジェクト Vol.5 ～それぞれの漱石～にご来場いただき、誠にありがとうございます。

新宿区は、漱石が晩年の9年間を過ごし、数々の名作を世に送り出した新宿区早稲田南町7番地の「漱石山房」跡地に、漱石生誕150周年にあたる平成29年9月の開館を目指し、(仮称)「漱石山房」記念館の整備を進めています。

記念館の整備にあたり、全国の皆さまのご支援をいただきたいと考え、平成25年7月より「夏目漱石記念施設整備基金」への寄付の受付を開始しました。これまでに多くの皆さまからご厚志をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。開館に向けて、引き続き皆さまの温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

本日の第1部では「平成27年度新宿区夏目漱石コンクール」で優秀作品に選ばれた皆さんに表彰状を授与するとともに、審査委員長である作家・嵐山光三郎さんに審査講評をしていただきます。そして第2部では、国内外で幅広く活動されている俳優・イッセー尾形さんによる一人芝居をお楽しみください。

最後までごゆっくりお楽しみいただき、漱石の世界や記念館整備に思いを馳せていただければ幸いです。

新宿区長 吉住 健一

第1部

平成27年度 新宿区夏目漱石コンクール 優秀作品表彰式

「猫になって描いてみよう

～わがはいはネコである～

(小学生対象)

「わたしの漱石、わたしの一行」

(中高生対象)

全国から応募された作品から優秀作品を紹介し表彰します。



講評

審査委員長 嵐山光三郎 (作家)

Profile

昭和17年(1942)静岡県生まれ。雑誌編集者を経て、作家活動に入る。昭和63年『素人庖丁記』により、講談社エッセイ賞を受賞。平成12年『芭蕉の誘惑』(後に『芭蕉紀行』と改題)により、JTB 紀行文学大賞を受賞。『悪党芭蕉』が平成18年泉鏡花文学賞を、平成19年に読売文学賞を受賞した。『文人悪食』『文人暴食』『文人悪妻』『下り坂』繁盛記』『ぼくの交遊録的読書術』など著書多数。

第2部

一人芝居 「妄ソーセキ劇場」

出演

イッセー尾形 (俳優)



漱石の作品に登場する様々な人物を、俳優・イッセー尾形氏が独自の視点で演じます。氏にとって久々の一人芝居は、その名も「妄ソーセキ劇場」。いったい誰が100年の時を超えて蘇ってきますことやら。

Profile

昭和27年(1952)福岡県生まれ。昭和56年、テレビのオーディション番組「お笑いスター誕生!!」で金賞を獲得。日本における一人芝居のスタイルを確立し、その第一人者となる。現在では国内だけでなく欧米でもその演技力は高い評価を受けており、映画、ドラマ、CM、小説の執筆、絵画など幅広く活動を行なっている。

漱石作品における女性

小説の登場人物には「この人物のモデルは誰だったのか?」という話が付き物です。そうした話はしばしば実際の小説を離れて様々な議論を引き起こしてきました。

もちろん、漱石作品も例外ではありません。作品ごとにその登場人物のモデルは誰なのか、実際にはどんな人だったのかと、色々な意見が飛び交い、とりわけ女性の登場人物については、ゴシップ的な関心も手伝って、議論は白熱しました。

その代表例として『行人』に出てくる直という人物を挙げることが出来ます。直は作品の主人公である長野二郎の嫂(あによめ)であり、はっきり書かれていないのであくまでも一つの解釈ですが、二郎の禁断の恋の相手という風に読まれてきた人物でした。この嫂への密かな恋心という物語に漱石と夏目登世(一つ上の兄直矩の妻)の関係を重ねて見ようとしたのが評論家の江藤淳でした。

江藤は漱石が友人の正岡子規に宛てた手紙の中で嫂の若すぎる死を悲しんでいたという事実に注目し、資料をもとにその嫂というのが登世であることを突き止めました。更に江藤は登世の実家である水田家についても調べ上げ、『行人』における直=登世説を唱えたのです。

しかし、江藤の説は発表されるや、多くの反論に直面しました。また、これとは別に友人大塚保治の妻楠緒子の他様々な人物が漱石の恋人候補に挙げられており、いずれも説得力はあるのですが、今のところ、はっきりそうだと言いつける人物は一人もいないのです。そして恐らくはこうした議論にとって決定打となるような資料は今後もなかなか出てくることはないでしょう。

そうであったとしても漱石作品が読み続けられる限り、そこに描かれた女性たちは我々にとって未知なる漱石の一面を仄めかす存在として、我々の関心をくすぐり続けるのかも知れません。





ともに創ろう、(仮称)「漱石山房」記念館

漱石を発信する、活気とにぎわいのある記念館に
漱石文学とともに、ゆったりとした時を過ごせる記念館に

**漱石生誕 150 周年にあたる平成 29 年 9 月の開館を目指し、
記念館整備を進めています。**

- 記念館内に書斎・客間・ベランダ式回廊など「漱石山房」の一部を再現
- 常設展のほか、企画展や講座・イベントを開催し、漱石やその文学の世界を紹介
- 漱石に関する本を読みながら、ゆったりとした時を過ごせる図書室やカフェを設置



記念館イメージ



漱石山房書斎（再現展示）イメージ

整備予定地

新宿区早稲田南町 7 番地

諸室概要

- 2階………展示室（企画展示・常設展示）
- 1階………山房再現展示、導入展示、カフェ、ミュージアムショップ
- 地下1階… 図書室、講座室、事務室、収蔵庫 等

夏目漱石記念施設整備基金にご支援・ご協力をお願いします

漱石ゆかりの新宿のまちに、初の本格的な漱石記念館を整備するため、全国の皆さまのお力添えをいただきたいと考え、平成 25 年 7 月に「夏目漱石記念施設整備基金」を設置しました。目標額を 2 億円として寄付の募集を開始し、11 月 20 日現在で 6,530 万 7,000 円 (1,242 件) のご寄付をいただいています。ご厚志をお寄せいただいた皆さまに心より御礼申し上げます。皆さまからの寄付は、記念館の建設と資料の収集に活用します。引き続き、皆さまの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

問い合わせ先

新宿区地域文化部 文化観光課 文化資源係

〒160-8484 新宿区歌舞伎町 1-4-1 電話 03 (5273) 4126 〈直通〉